

# 東奥信用金庫

## 地域内企業の業況レポート

No. 123  
2023年10～12月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81  
TEL 0172-33-8404 業務部 -2024.1.31-  
HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

## 《今回調査のポイント》

### ● 10～12月期（今期）業況判断DI値 やや悪化で推移

10～12月期の業況判断DI値は、前回調査比8.0ポイント低下の▲5.2とやや悪化し、前回予想値(2.4)に対しては7.6ポイント低下する結果となった。項目別では、売上・受注で7.9ポイント低下の1.4、売上数量も7.6ポイント低下の▲1.4、利益でも4.5ポイント低下の▲9.7と全項目で低下となった。

今年度、新型コロナウイルス感染症が5類に分類された影響によりDI値がプラスで推移していたが、今期はマイナスに転じた。飲食業やサービス業の業況は良好に推移しているものの、各業種とも業況はコロナ禍前には戻っていない。エネルギー価格や原材料・仕入価格の高騰が続いている事から、各企業とも利益確保が難しい状況となっている。



業況お天気図

### ● 1～3月期（来期）各項目別DI値 悪化を見込む

1～3月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比13.4ポイント低下の▲18.6と悪化の予想となった。項目別では、売上・受注で16.2ポイント低下の▲14.8、売上数量が16.2ポイント低下の▲17.6、利益でも10.7ポイント低下の▲20.4と総体的に悪化傾向である。

前回同様に「エネルギー価格の高騰」や「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が高止まりしていること、今後も好転する見通しもないことが大きく影響。夏場の猛暑の影響を受けている企業、「2024年問題」や「人材不足」を懸念する業種も多数あり、総じて悪化の見通しとなった。



業況予想お天気図



## お天気図

好調



（お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。）

## 全業種総合

回答企業数290企業（回答率99.66%）

## 概況

## ～総合的業況判断DI値 やや悪化で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比8.0ポイント低下の▲5.2とやや悪化した。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が26.4ポイント低下の36.8、運輸業は30.0ポイント増加の20.0、サービス業が2.4ポイント上昇の14.3となった。一方で建設業が3.5ポイント低下の▲1.8、卸売業が3.4ポイント低下の▲13.8、製造業が15.2ポイント低下の▲15.2、小売業が14.3ポイント低下の▲19.8、不動産業が11.1ポイント低下の▲22.2となった。運輸業、サービス業が改善したもの、6業種についてはやや悪化・悪化となった。

## ～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」106先、「人員不足」101先、「売上の低迷・減少」86先、「利幅の縮小」76先、「経費の増加」56先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は2先増加、「人員不足」が13先増加、「売上の低迷・減少」は同数、「利幅の縮小」は4先増加、「経費の増加」13先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が36先、前期比1先減少、設備投資実施予定期割合は12.4%と前期比0.3%減少した。業種別では、製造業(土地・建物・機械等)21.2%、サービス業(土地・建物・機械等)16.7%、小売業(建物・機械・機械等)12.1%、不動産業(土地・建物)11.1%、飲食業(建物・機械)10.5%、運輸業(建物・機械)10.0%、建設業(土地・建物・機械等)8.8%、卸売業(建物・機械)6.9%となった。

資金繰りDI値は、前回調査比3.5%低下の▲9.3と悪化、今期借入した企業は19.7%と前回調査時(17.5%)より2.2%増加となった。

## 来期の見通し

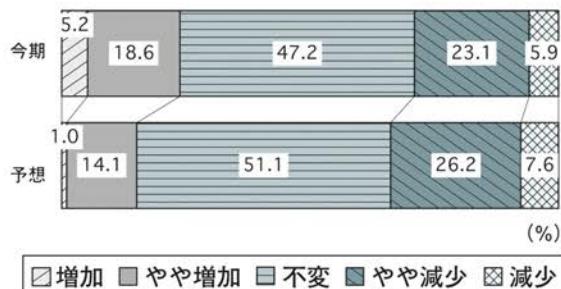
## ～総合的業況判断DI値 悪化の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比13.4ポイント低下の▲18.6と悪化の予想となった。

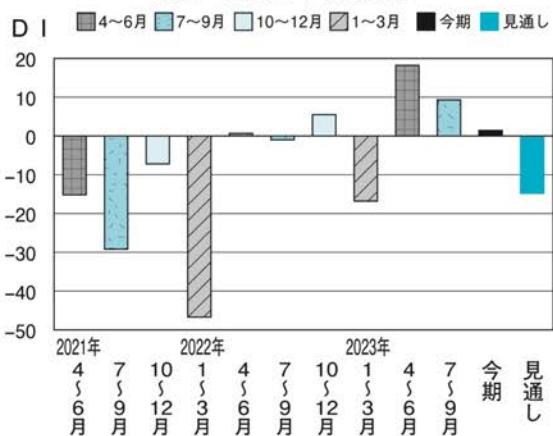
業種別では、飲食業が21.0ポイント低下の15.8、卸売業が10.4ポイント上昇の▲3.4、小売業が4.4ポイント上昇の▲15.4、製造業が9.0ポイント低下の▲24.2、サービス業が40.5ポイント低下の▲26.2、建設業は26.3ポイント低下の▲28.1、運輸業は50.0ポイント低下の▲30.0、不動産業も22.2ポイント低下の▲44.4と、来期の見通しは飲食業以外すべてマイナスに転じた。

今期資金手当した先が19.7%であったが、今後資金手当て等借入を予定している先は15.9%となっている。

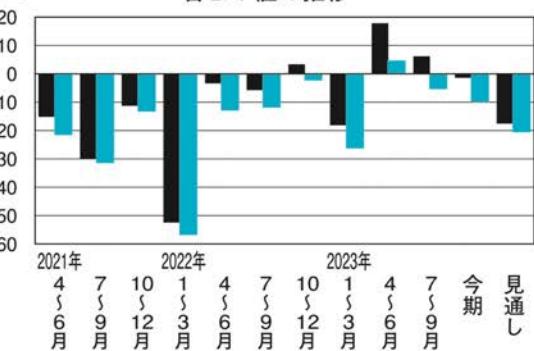
## 業況判断（全業種）



## 売上・受注DI値の推移

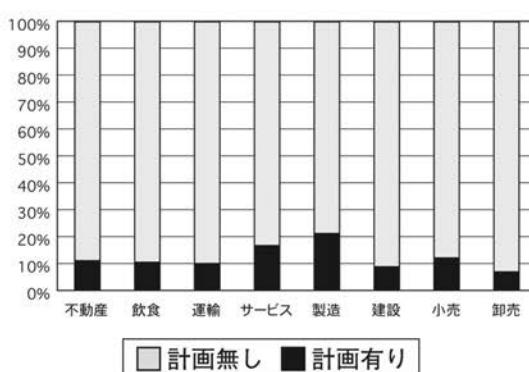


## 各DI値の推移



■ 売上数量DI値の推移 ■ 利益DI値の推移

## 設備投資計画の有無



## 卸売業

回答企業29企業

### 概況

～業況判断DI値悪化で推移～

今期の業況判断DI値は、前回調査比3.4ポイント低下の▲13.8と悪化し、前回調査予想値(0.0)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で34.5ポイント上昇の6.9、売上数量が34.5ポイント上昇の3.5、利益では13.8ポイント上昇の▲6.9となつた。

農産物は猛暑の影響から品質、生産量とも悪化し業況に影響あつたものの、りんごについては品薄から产地価格、販売価格とも高値で推移。取扱量は減少しているが、利益確保が見込まれている。

### 分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

酒類等卸売業は、年間を通して一番の繁忙期であり売上は増加となつたがコロナ禍前の水準には達していない。

自動車関連部品卸売業は、スタッドレスタイヤ販売時期となり業況活発に推移。

米卸売業は、収穫期により多忙となつたが価格は前期に比べても大きく変化なく例年並みに推移した。

建設資材卸売業は、建設業界全般の低迷から売上高減少傾向となつた。



### 来期の見通し

～業況判断DI値やや改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比10.4ポイント上昇の▲3.4とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で3.5ポイント低下の3.4、売上数量も24.2ポイント低下の▲20.7、利益では0.0ポイントの▲6.9と項目別ではやや低下の見込みとなつた。

りんごについては、輸出が活発となるが各業者とも数量確保が難しい状況にある。

### 業況判断DI値の推移



## 小売業

回答企業91企業

### 概況

～業況判断DI値悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比14.3ポイント低下の▲19.8と悪化し、前回調査予想値(▲15.4)を下回る結果となつた。項目別では、売上・受注で16.5ポイント低下の▲8.8、売上数量が13.2ポイント低下の▲8.8、利益でも11.0ポイント低下の▲18.7となり、すべての項目で悪化となつた。

スタッドレスタイヤ、ケーキ、灯油など季節商品の売上高は良好に推移したが、総体的には前期を下回る結果となつた。

### 分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

酒類小売業は、お歳暮や忘年会等のイベントにより売上高は好調に推移した。

青果物小売業者においては、りんごの品薄や仕入価格高騰を受け仕入減少により売上高は減少となつた。

除雪機販売業者においては需要期を迎えたものの、相変わらず入荷数少なく、販売増とはならず修理が増える結果となつた。

燃料等小売業は、農村地区について売上は横ばいとなるが、市街地においては競争激化により業者間格差あり。灯油の需要期となり総じて売上は増加傾向にあつた。

コンビニにおいては、クリスマスケーキの販売が好調で売上全体を押し上げた結果となつた。

### 来期の見通し

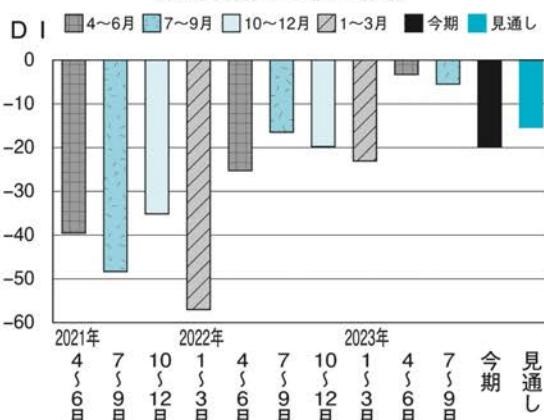
～業況判断DI値やや改善の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比4.4ポイント上昇の▲15.4と、やや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で1.1ポイント低下の▲9.9、売上数量が2.2ポイント上昇の▲6.6、利益は2.2ポイント上昇の▲16.5となつた。

各業種とも、年間を通して一番の閑散期となるがやや改善の見通しとなつた。

### 業況判断DI値の推移



## 建設業

回答企業57企業

## 概況

## ～業況判断DI値 やや悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比3.5ポイント低下の▲1.8とやや悪化し、前回調査予想値(10.3)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で13.9ポイント低下の▲7.0、売上数量が10.5ポイント低下の▲8.8、利益では3.3ポイント上昇の▲10.5となった。項目別では利益のみやや改善となった。

公共工事の受注は例年並みに推移。人員不足の影響から、受注調整をしている業者も多い状況となった。

## 分野別の状況

## ～総合的業況はやや悪化で推移～

一般住宅については新築工事はやや減少傾向にあるがリフォーム、小口工事は堅調。

土木工事業は、公共工事を主体に好調に推移。

管工事業は、公共工事・一般工事とも好調に推移。

造園業においては、剪定作業終了後雪囲い受注もあり例年通りに推移したが、資材高騰により利益は減少傾向となった。

業界全体として人材、下請け業者の不足があげられており人材確保が課題となっている。

## 来期の見通し



## ～業況判断DI値 悪化の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比26.3ポイント低下の▲28.1と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で26.3ポイント低下の▲33.3、売上数量が26.3ポイント低下の▲35.1、利益は22.8ポイントの低下の▲33.3となった。

来期は冬季間により業者間格差もあるが、業況悪化を見込んでいる。人材確保に向け、各企業とも対応に苦慮している。



## 製造業

回答企業33企業

## 概況



## ～業況判断DI値 悪化で推移～

今期の業況判断DI値は、前回調査比15.2ポイント低下の▲15.2と悪化し、前回調査予想値(12.1)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で12.1ポイント低下の0.0、売上数量が15.1ポイント低下の▲3.0、利益でも3.1ポイント低下の▲15.2と全項目で悪化した。

原材料および燃料費等の高騰で、価格転嫁により売上高は増加するも、利益は横ばいで推移している業者が多い。青果物加工業については、品質悪化や品薄により仕入価格上昇を受け厳しい状況。

## 分野別の状況

## ～総合的業況 悪化で推移～

酒造メーカーでは一番の繁忙期を迎える、また日本酒人気の高まりから好調に推移。

りんごを取り扱う食料品製造業は、材料の品質、数量、価格高騰の影響を受け対応に苦慮している。

印刷業では、紙印刷の売上の低迷が続き年賀状印刷も減少している。

洋菓子・和菓子製造業については、原材料や資材の高騰から利益低下を余儀なくされ、さらなる価格転嫁は売上高減少も見込まれる事から対応に苦慮している。

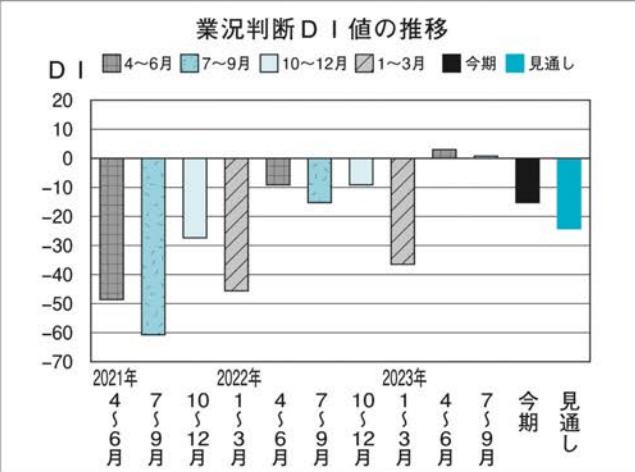
## 来期の見通し



## ～業況判断DI値 悪化の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比9.0ポイント低下の▲24.2と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注では9.1ポイント低下の▲9.1、売上数量が9.1ポイント低下の▲12.1、利益では0.0ポイントの▲15.2と、項目別でも悪化の見通しとなった。

業種にもよるが、季節的要因から業況は低調に推移する見通し。さらなる原材料の高騰や、人員不足などの問題もあり対応に苦慮している。



## サービス業

回答企業42企業

### 概況

～業況判断DI値 やや改善で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比2.4ポイント上昇の14.3とやや改善し、前回調査予想値(14.3)と同様の結果となった。項目別では、売上・受注で2.4ポイント低下の14.3、売上数量が4.8ポイント低下の9.5、利益でも4.8ポイント低下の11.9と項目別ではやや悪化となった。

宿泊業では概ね好調に推移。旅行代理店に於いても特に団体客予約多くコロナの終息を実感している。

### 分野別の状況

～総合的業況 やや改善で推移～

宿泊業では格差はあるもののインバウンドの増加、紅葉・忘年会等あり好調に推移。

自動車関連は、車検・修理やタイヤ交換などで業況は堅調に推移するも、部品代の高騰による利益低下や人員不足の問題を抱えている。

理容業に於いては、固定客を中心にコロナ禍前に戻っている。

クリーニング業は、衣替え時期を迎えると売上増加となる。

### 来期の見通し

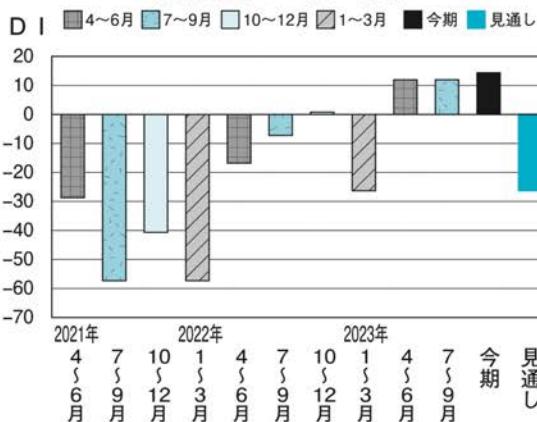
～業況判断DI値 大幅悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比40.5ポイント低下の▲26.2の大幅な悪化の見通しである。項目別では、売上・受注では31.0ポイント低下の▲16.7、売上数量も30.9ポイント低下の▲21.4、利益でも28.6ポイント低下の▲16.7と各項目とも悪化の見通しとなった。

各業種とも冬季間は一番の閑散期となるため前期比大幅に悪化となるも、前年並みに推移する見通し。

### 業況判断DI値の推移



## 運輸業

回答企業10企業

### 概況

～業況判断DI値 改善となる～



今期の業況判断DI値は、前回調査比30.0ポイント上昇の20.0と改善したが、前回調査予想値(30.0)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で10.0ポイント上昇の10.0、売上数量が10.0ポイント低下の▲10.0、利益では0.0ポイントの▲30.0の結果となった。

農産物の運送が本格化し前期比業況は改善となるが、猛暑の影響から青果物やりんごの流通量が減少傾向であり、売上・利益にも影響があった。

### 分野別の状況

～総合的業況は改善傾向～

旅客運送業は、業況堅調に推移。東北各空港での国際定期便の再開によりインバウンド増加も見込まれている。

青果物輸送については、夏場の猛暑の影響から生産量減少した事を受け、例年に比べやや悪化となった。

各企業とも燃料価格高止まりにより利益を圧迫していることから、経費削減や効率化に向けた努力をしている。

### 来期の見通し

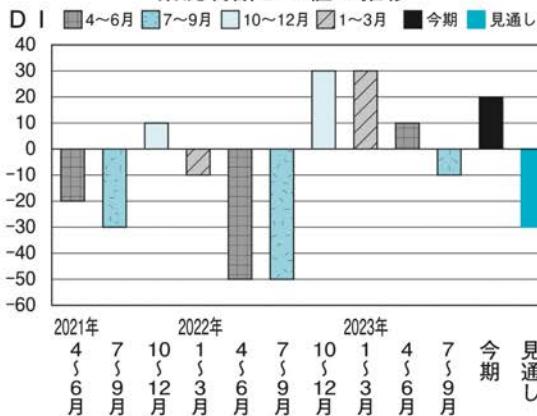
～業況判断DI値 大幅悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比50.0ポイント低下の▲30.0と大幅な悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で40.0ポイント低下の▲30.0、売上数量が20.0ポイント低下の▲30.0、利益では0.0ポイントの▲30.0となった。

冬季間の青果物輸送は減少期にあり、りんごの生産量の減少から来期の見通しは悪化となる。加えて2024年問題やドライバーの高齢化・人材不足など各企業とも問題を抱えている事も見通しに影響している。

### 業況判断DI値の推移



## 飲食業

回答企業19企業

## 概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比26.4ポイント低下の36.8と悪化したが、前回調査予想値(21.1)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で26.3ポイント低下の42.1、売上数量が21.0ポイント低下の47.4、利益でも21.1ポイント低下の10.5と各項目で減少した。

食堂・ドライブインではイベント等の外食需要の高まりから売上は堅調に推移。各種会合等は格差あるものの概ね良好に推移。

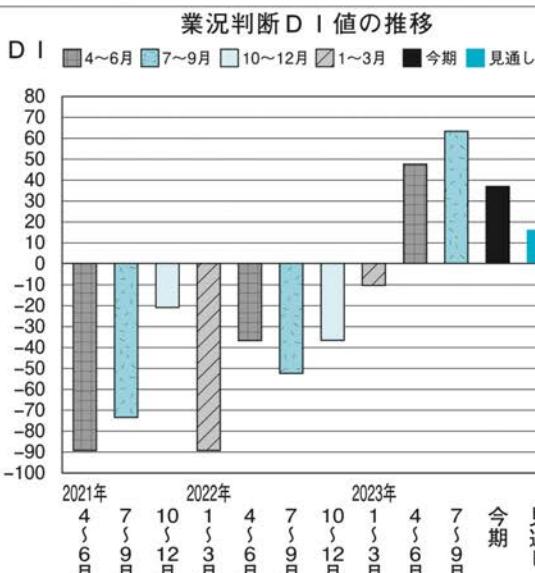
## 来期の見通し

～総合的業況判断では悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比21.0ポイント低下の15.8と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で31.6ポイント低下の10.5、売上数量が36.9ポイント低下の10.5、利益では36.8ポイント低下の▲26.3と全項目で悪化。利益については大幅悪化の見通しとなった。

年度末に向け各イベント等の開催により期待感あるが、「材料費」、「光熱費」のさらなる高騰、暖房費の増加が懸念され悪化の見通しとなった。



## 不動産業

回答企業9企業

## 概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比11.1ポイント低下の▲22.2と悪化し、前回調査予想値(▲22.2)と同様の結果となった。

項目別では、売上・受注で11.1ポイントの低下の▲11.1、売上数量が22.2ポイント低下の▲33.3、利益では22.2ポイント低下の▲22.2と全項目で悪化となった。

今期は、土地の売買が減少した。中古物件や賃貸契約に於いては例年並みに推移した。物件探しはネットを利用する顧客が増えしており、業者間の競争が激化している。

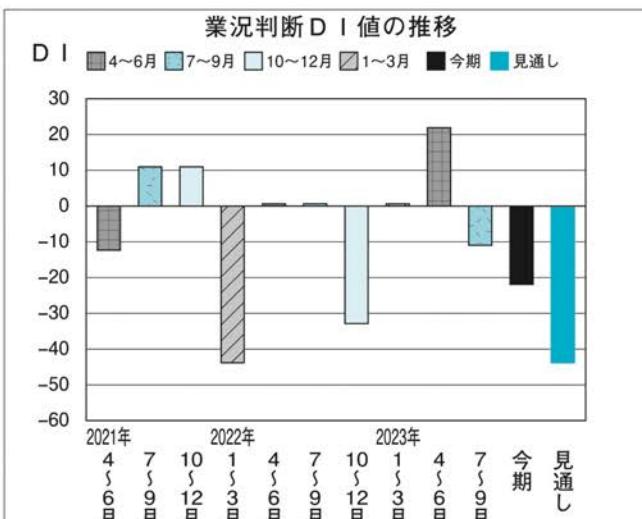
## 来期の見通し

～総合的業況 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比22.2ポイント低下の▲44.4と悪化の見通しである。項目別では売上・受注で44.5ポイント低下の▲55.6、売上数量が22.3ポイント低下の▲55.6、利益でも11.1ポイント低下の▲33.3と全項目で悪化の見通しとなった。

今期は冬季間のため例年通り売買は減少、加えて物件価格高騰が大きく影響している。年度末は賃貸契約の需要期となるため、各企業とも情報力を強化している。



## 調査要領

- 調査時期 2023年12月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内291社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」「やや増加(やや上昇)」したとする回答と、「減少(下降)」「やや減少(やや下降)」したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。